

## 折に触れ 四字熟語

### NO. 95 『不義富貴』 ふぎ ふうき

< 意味 > 不正な手段を用いて得られた、富や地位のこと。

< 出典 > 「論語」<述而<sup>じゆつじ</sup>>

「子曰、飯疏食、飲水、曲肱而枕之。樂亦在其中矣。不義而富且貴、於我如浮雲。」

読み下し：『子曰く、<sup>そし</sup>疏食を食らい、水を飲み、<sup>とうと</sup>肱を曲げてこれを枕とす。楽しみまたその中<sup>うち</sup>に在り。不義にして富みかつ<sup>とうと</sup>貴きは、われにおいて浮雲のごとし。』

通 釈： 雑炊をすすり、白湯を飲み、肱を枕にごろ寝する。こんな貧乏ぐらしの中にも、楽しみはないわけではない。それにひきかえ、わるいことをして金や地位を手に入れ、派手な暮らしをするのは、わたしからみれば空に浮かぶ雲みたいなものである。

語 釈： 「富貴」は財産があつて身分がたかいこと。

一 言： 論語シリーズ その7

日産自動車のカルロス・ゴーン会長の逮捕のニュースが世界中に大変な衝撃を与えています。ルノー、日産自動車、三菱自動車などから我々庶民からすると破格の報酬を得ていたでしょうに、何故彼ほどの傑出した人物が、報道されているような不正行為をしたのでしょうか。

人は、いったん富を手にする、雪中を転がり膨れあがっていく雪玉のように更なる富を求めて行き、自らの理性を狂わせてしまうものなのでしょうか。

参照文献： 徳間書店・久米旺生訳「論語」 三省堂「四字熟語辞典」